

初秋を彩る紅の色



《昨年10月初旬、神田上水周辺の様子》

秋の夜長の小石川後樂園 2025

『秋の夜長の小石川後樂園 2025』と題し、今年も下記の期間、夜間特別開園を開催します。

期間：10月10日(金)～10月20日(月)
18時～21時(最終入園 20時)

3回目を迎える今回は、期間中毎日、“蓬萊島”や“一つ松”のライトアップに加え、“円月橋”の幻想的な雰囲気もご覧いただけます。

また新たに、“唐門”のプロジェクションマッピングや、特別企画の重ね押しスタンプラリーを「小梅ちゃんと楽しむ秋の夜長の小石川後樂園」と題してお楽しみいただけます。

さらに、「江戸城下の宴」と題した伝統芸能公演では、江戸太神楽、神田囃子・寿獅子、紙切り、大江戸玉すだれを日替わりでご覧いただけます(観覧無料)。

和の小物や、紙提灯(各日ごとに数量限定)、秋の味覚を取り入れた軽食やお飲み物の販売もあります。

夜間特別開園にお越しの際は、前売券(オンライン・1,000円)がお得!(当日券は1,200円)なお、年間パスポートをお持ちの方も、夜間特別開園ご入園には、夜間特別観賞券が必要です。

内容など詳しくは、右記QRコードより特設サイトをご覧ください。



《特設サイトQR》

《唐門プロジェクションマッピング・イメージ》



暦の上では、立秋もだいぶ過ぎ、朝晩には、なんとなく秋の気配を感じるこのごろです。とはいえ、昼間はまだまだ残暑厳しく、夏のお疲れが出ませんように、お過ごしください。

さて、当園の初秋といえば、田園風景を紅く染める“ヒガンバナ(彼岸花、別名：マンジュシャゲ(曼珠沙華))”。毎年、秋の彼岸ころから花数が増えますが、昨年(上写真)は、例年より一週間程遅れました。今年の開花状況は、ホームページやX(旧Twitter)などでご案内します。

さらに、小学生が作ってくれる案山子(かかし)が登場するところから、どんどんと黄金色に染まる田んぼ。蓮池では、花托が熟し、灰緑色から焦げ茶色へと移ります。ミ〜ンミ〜ンやジ〜ジ〜と、大きかったセミの声も、カナカナカナなど、少しトーンが抑えぎみになり、代わって夕方からは、秋の虫たちの大合唱が始まります。

色にも音にも風情を感じさせてくれる初秋の庭園で“一足早い秋”を探してみませんか？

どうして『水戸黄門』？

当園パンフレットの表紙をご覧くださいと、園名の下に“水戸黄門ゆかりの名園”と書かれています。時代劇でお馴染みだった『水戸黄門(みとうこうもん)』ですが、今ではその時代劇も、ご存じない方が増えています。

江戸時代、当園の主は、水戸徳川家の歴代藩主で、徳川御三家として尾張・紀伊とともに、将軍を輔佐しました。

その中でも、当園を完成させた二代藩主の光圀(みつくに)は、名君として後世の人々にも慕われ、幕末には、講談師が光圀を主人公にした物語を作ります。その題名こそが『水戸黄門漫遊記』。光圀に与えられていた「権中納言(ごんちゅうなごん)」の「中納言」という官位は、唐名を「黄門(または黄門侍郎(こうもんじろう))」と称したため、人々から“黄門さま”と呼ばれるようになったのだとか。

ちなみに、十一代続いた水戸徳川家の藩主の中で、「権中納言」の官位を与えられたのは光圀の他に6人。ですので、光圀だけでなく、この6人もみんな『水戸黄門』だったともいえるのです。

かわら版

小石川後樂園

第174号

令和7年
8月27日
発行

お得な年間パスポート

- 小石川後樂園用●
一般:1,200円
65歳以上:600円
- 都立9庭園用
一般:4,000円
65歳以上:2,000円

熱中症を予防するため、散策の際は水分・塩分補給もお忘れなく！

X(旧Twitter) @korakuenGarden



HP「公園へ行こう！」



9庭園Instagram



かわら版についてのお問い合わせは 小石川後樂園サービスセンター 03(3811)3015

広報係(協会の事業全般に関するお問い合わせ) TEL 03(3232)3011 ※8:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除く) 指定管理者 公益財団法人 東京都公園協会